

(4) 期日・会場

地区	期日	会場
中通り方部	5月18日～19日	須賀川高等学校
会津方部	5月20日～21日	大沼高等学校
浜方部	6月14日～15日	四倉高等学校

(5) 講習内容

主題「高等学校において、学力の向上を図るにはどうしたらよいか」

- ① 学習指導法の改善点
- ② 現職教育の計画立案とその進め方

(6) 講師

福島大学学芸学部教授 田口孝之
福島大学学芸学部教授 宮口春雄

(7) 主なる反省事項

- ① 本講習会は、本年度の新規事業ではあったが、講習事項を徹底させることができ、所期の目的を達成することができた。
- ② 講習内容として、大学教授の講演、指導主事の講義、公開授業などが組みこまれたことはよかった。
- ③ 本年度の参加対象者は、主任、科長、実習主任等としたが、今後は、比較的教職経験の少ない教員、一般教員を参加させてほしいとの要望が多い。
- ④ 内容として、さらに、教科別の指導法、分科会等を計画して講習会を強化し、継続して開催するよう要望が多い。
- ⑤ 参加者の態度はきわめて熱心であった。

3 教育課程研究集会の開催

小学校、中学校および高等学校について開催し、酷暑を克服して尊い実践を発表し、研究協議をして、所期の目的を達成した。（詳細は第5章第3節参照）

4 各種研究会、講習会等

「児童生徒の学力の向上をはかる」ために、上記のほか、別記の各種研究会、講習会を開催し、「教職員の資質の向上をはかった。

（詳細は第5章第2節、第3節、第5節、第6節、第7節、第8節、第13節参照）

5 学力向上推進校の委嘱

農村地区の中規模小学校、中学校8校を学力向上推進校に指定し、本年度より2か年継続の予定で研究を進めるよう依頼した。（第1期の指定は、昭和38年度である。）

(1) 目的

本県児童生徒の学力の向上を図るため、小学校および中学校について、学校経営全般の充実をはかり、学力向上の実をあげるモデル校を指定し、その資料を各学校に普及活用させる。

(2) 指定校の運営

指定校は、前記目的の達成を図るため、学校経営

の全般にわたり診断評価し、その改善充実に努めて学力向上の実をあげるとともに、その資料の普及をはかる。

指定校においては、次の諸点について配慮し、実情に即した運営の計画をたてるものとする。

- ① 学校経営の評価
- ② 児童生徒の実態は握
- ③ 学力向上の施策
ア. 学力向上のための体制を整備充実する。
イ. 授業の体質改善を行ない、充実をはかる。
ウ. 生徒指導の徹底をはかる。
エ. 教育環境の整備充実をはかる。

(3) 指定校および研究主題

- ① 田村郡大越町立大越小学校（校長 渡辺俊夫）
「学力の向上をはかる指導法の研究」
（特に国語・算数を中心とした主体的学習）
- ② 東白川郡塙町立笹原小学校（校長 鈴木勝富）
「自主的な学習態度を育てるには、どのようにしたらよいか」
- ③ 喜多方市立豊川小学校（校長 佐藤善喜）
「主体的な学習を進めて学力を高める研究」
- ④ 石城郡田人村立田人第一小学校（校長 江尻静男）
「授業の体質改善」
（学習指導の改善と学習方法訓練）
- ⑤ 双葉郡浪江町立大堀小学校（校長 石井 忠）
「主体的な学習を進めるための実践的研究」
（正しく感じ、正しく考え、正しく意欲し、正しく行なう力をもつこどもを育てる）
- ⑥ 安達郡大玉村立玉井中学校（校長 紺野直永）
「学力向上をはかる教育実践をどうするか」
（学習環境の整備と学習指導の研究）
- ⑦ 西白河郡中島村立中島中学校（校長 吉田直義）
「意欲的な学習活動をさせるにはどうしたらよいか」
- ⑧ 河沼郡柳津町立柳津中学校（校長 酒井幸雄）
「主体的な学習を高めるための学習指導法の改善と学習習慣の形成」

(4) 成果

上記の主題について、推進校が相互に連絡提携しながら鋭意研究に努力した結果、つぎのような成果を収めた。

- ① 学校経営全般にわたって、教職員全員がその改善策を検討し、積極的にそれをひとつひとつ着実に実行し、学校経営の実をあげた。
- ② 児童生徒に自主的な学習態度が身につき、学力の向上が見られた。
- ③ 授業のきびしさを再発見した教師が、児童生徒の反応のすばらしさに勇気づけられ、さらに、きびしく授業充実の道を進もうという意欲に燃えている。
- ④ 共同研究を通して教師の姿勢を正し、新しい人間関係を確立した。
- ⑤ 研究実践過程を明らかにして、各地区の小学校、